

# 東百塚山古墳群の調査

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター  
平成27年1月24日(土)13:30～

## 1.はじめに

松江市大草町、八雲町日吉に所在する東百塚山古墳群は、総数250基以上の古墳で構成された島根県内最大級の「大草丘陵古墳群」の一角を構成する古墳群です。これまでに最大規模の1号墳の発掘調査が行われていますが、大半の古墳は未調査のため、古墳群の築造時期等を解明するために発掘調査を行いました。

## 2.これまでの調査成果

1995年～今年度まで風土記の丘資料館、島根県立松江北高等学校考古部、県埋蔵文化財センターなどが断続的に測量調査を行い、141基の古墳を確認しています。1号墳の発掘調査では、5世紀中頃の須恵器や埴輪が出土しています。

古墳群の各所で採集された土器などから大部分が5世紀中頃～6世紀前半に造られたと推定されます。

## 3.今回の調査成果

20号墓は、測量調査の時点で弥生時代後期に造られた「四隅突出型墳丘墓ではないか？」と推定されていました。今回の調査により「四隅突出型墳丘墓」の特徴である墳丘貼石、墳丘裾の敷石帯・立石列が見つかりました。また、地元の土器の他に、岡山県から運ばれた土器も出土しています。墳丘規模は東西16m×南北11m以上、高さ1.2m(突出部を含めると推定25m)で弥生時代後期後葉(2世紀後半)ごろに造られたものです。

71号墳は、盗掘を受けていて、墳頂付近には大規模な盗掘穴が残っています。墳丘の一部を断ち割って古墳の築造状況を確認したところ、墳丘の2/3は盛土をして造っていることがわかりました。

古墳が造られる以前には、弥生時代中期末～後期後葉の生活面があり、土器などが出土しています。

63～65号墳は、古墳群で最も標高の高い尾根上に造られた古墳です。通常は高い所→低い所の順に墓を造ることから、古墳群の中でも古い時期に造られたものと想定されます。今回の調査では、64号墳の南裾から5世紀後半ごろの須恵器(高杯・ハソウ)、土師器高杯3点が元々の位置で出土しています。

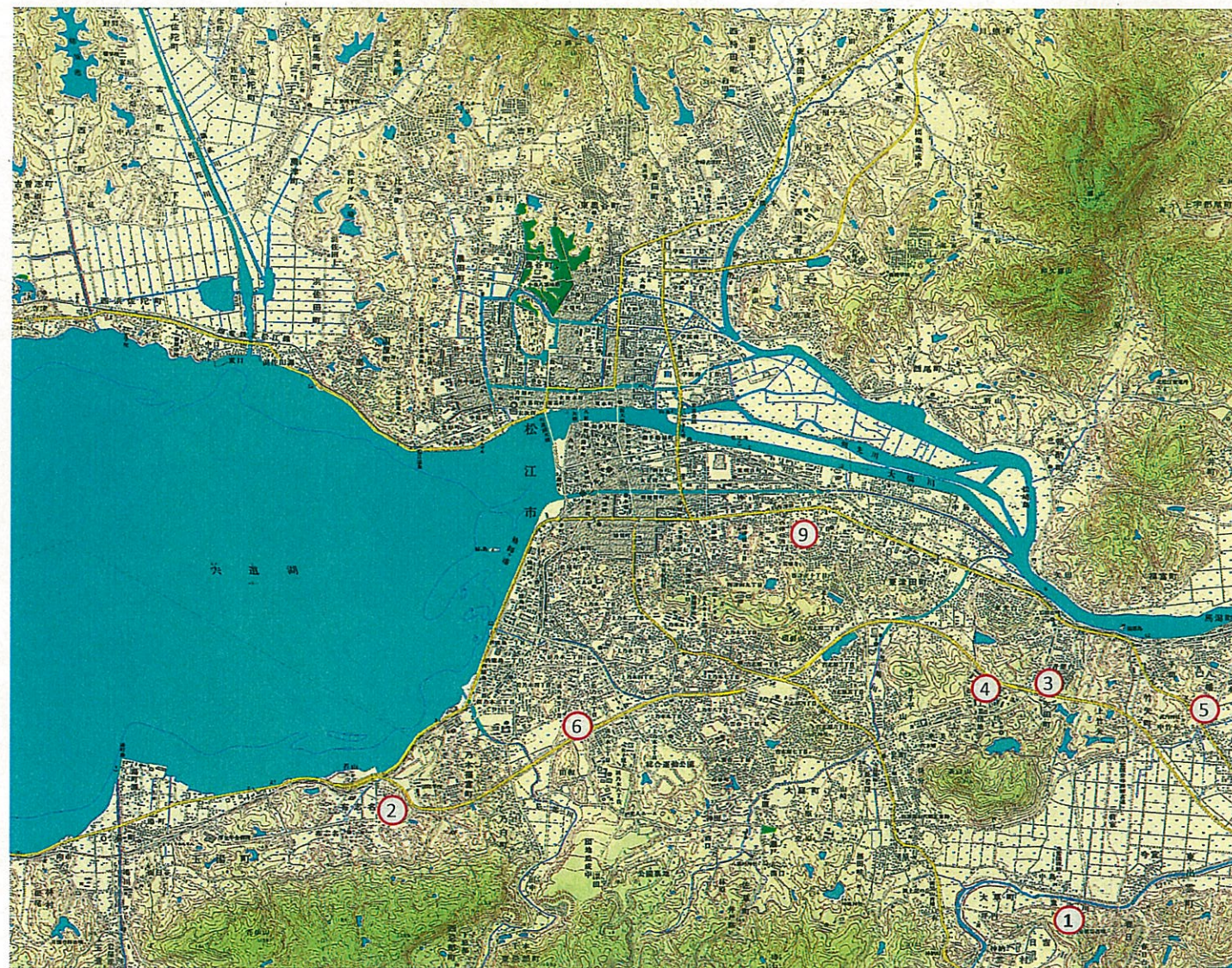
## 4.まとめ

東百塚山古墳群の所在する丘陵地は、弥生時代中期末～後期には集落や墓地として使われていることがわかりました。20号墓は意宇平野南部では初めて確認された「四隅突出型墳丘墓」であり、松江市内で確認されている「四隅」では東城ノ前3号墓に次いで最大級の規模を持ちます。この地域には、古墳時代以降に出雲地域を牽引する大首長が誕生しますが、弥生時代後期にも安定した勢力が存在したことを示す発見になりました。

丘陵頂部に所在する71号、63～65号墳の調査では、古墳群の築造が5世紀中頃に開始されていることが再確認されました。

	名称	所在地	規模	石の使用状況	時期(弥生時代)
1	東百塚山20号墓	松江市大草町	16×11m以上、高さ1.2m(突出部含25×13m以上)	貼石、列石、ⅡB類	後期後葉
2	布志名大谷Ⅲ遺跡1号墓	松江市玉湯町布志名	10.7×7.7m	貼石、Ⅰ類、ⅡB類	後期後葉
2	布志名大谷Ⅲ遺跡2号墓	松江市玉湯町布志名	6.5×5以上(突出部含)	貼石、Ⅰ類	後期後葉
2	布志名大谷Ⅲ遺跡3号墓	松江市玉湯町布志名	1辺2.3m以上	貼石、Ⅰ類	
3	間内越1号墓	松江市矢田町	8.8×6.7m、高さ0.6m	貼石、Ⅰ類	後期後葉～末
4	来美1号墓	松江市矢田町来美	10×8m、高さ1.5m、(突出部含13.5×10.5m)	貼石、列石、ⅡA類?	後期後葉～末
5	的場墳墓	松江市八幡町の場	8×13以上、高さ1m	貼石、列石、ⅡB類?	後期後葉
6	友田A区墳墓	松江市浜乃木町友田	東西10.5m	貼石、列石、ⅡB類?	後期初頭
7	沢下5号墓	松江市坂本町	6×7m	貼石、列石	後期後葉～末
7	沢下6号墓	松江市坂本町	11×12m、高さ0.4	貼石、列石、ⅡB類	後期後葉～末
8	南講武小廻遺跡	松江市鹿島町南講武	高さ0.8m	貼石、列石、ⅡB類	後期末
9	東城ノ前1号墓	松江市西津田	7.1×6.2m、高さ0.7m	貼石、Ⅰ類	
9	東城ノ前2号墓	松江市西津田	8以上×11m以上		後期末
9	東城ノ前3号墓	松江市西津田	18×12m、高さ0.7m	貼石	

松江市内の四隅突出型墳丘墓一覧



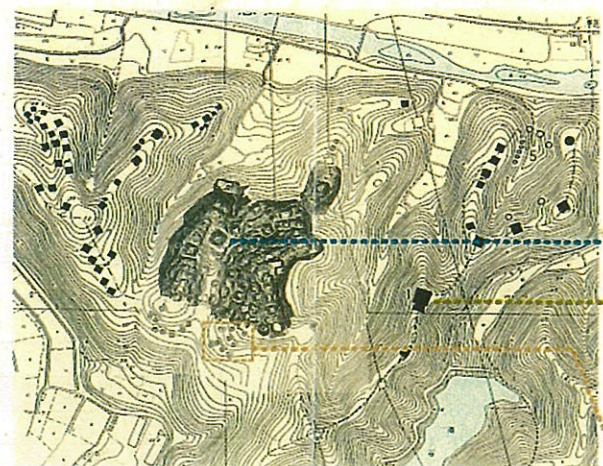
松江市内の四隅突出型墳丘墓の所在地

※地図上の数字は上の一覧表と対応します。  
※⑦、⑧は地図外



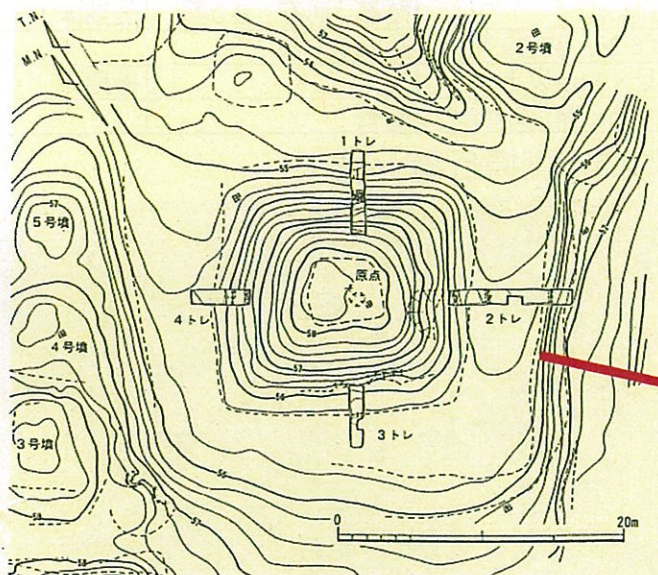
# 東百塚山古墳群とは？

東百塚山古墳群は松江市大草町の大草丘陵にある141基以上からなる古墳群で、県の史跡に指定されています。詳しい内容は不明でしたが、近年松江北高等学校により測量調査や発掘調査が行われ、古墳時代中期から後期(5～6世紀)にかけてつくられた古墳群であることがわかってきました。同じ丘陵には県史跡西百塚山古墳群や国史跡安部谷古墳(横穴墓群)、県史跡大草岩船古墳など総数250基近い古墳群が密集する県内最大級の古墳群です。



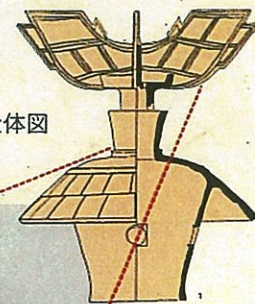
大草丘陵古墳群全体図

意宇平野南岸に位置する大草丘陵には、東百塚山古墳群や古天神古墳をはじめ、大小250基近くの古墳や横穴墓が集中しています。

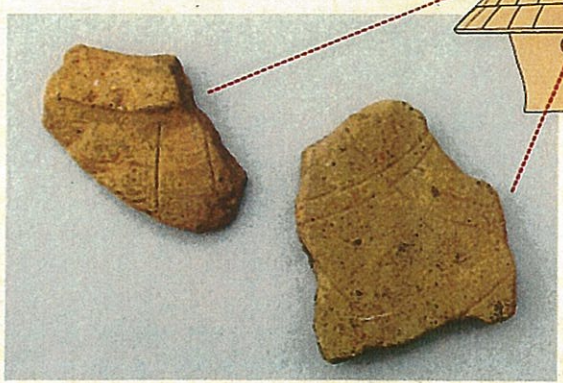


東百塚山1号墳

東百塚山古墳群の最大の古墳で、一辺19m、高さ3.7mあり、出土遺物から5世紀中頃と考えられます。

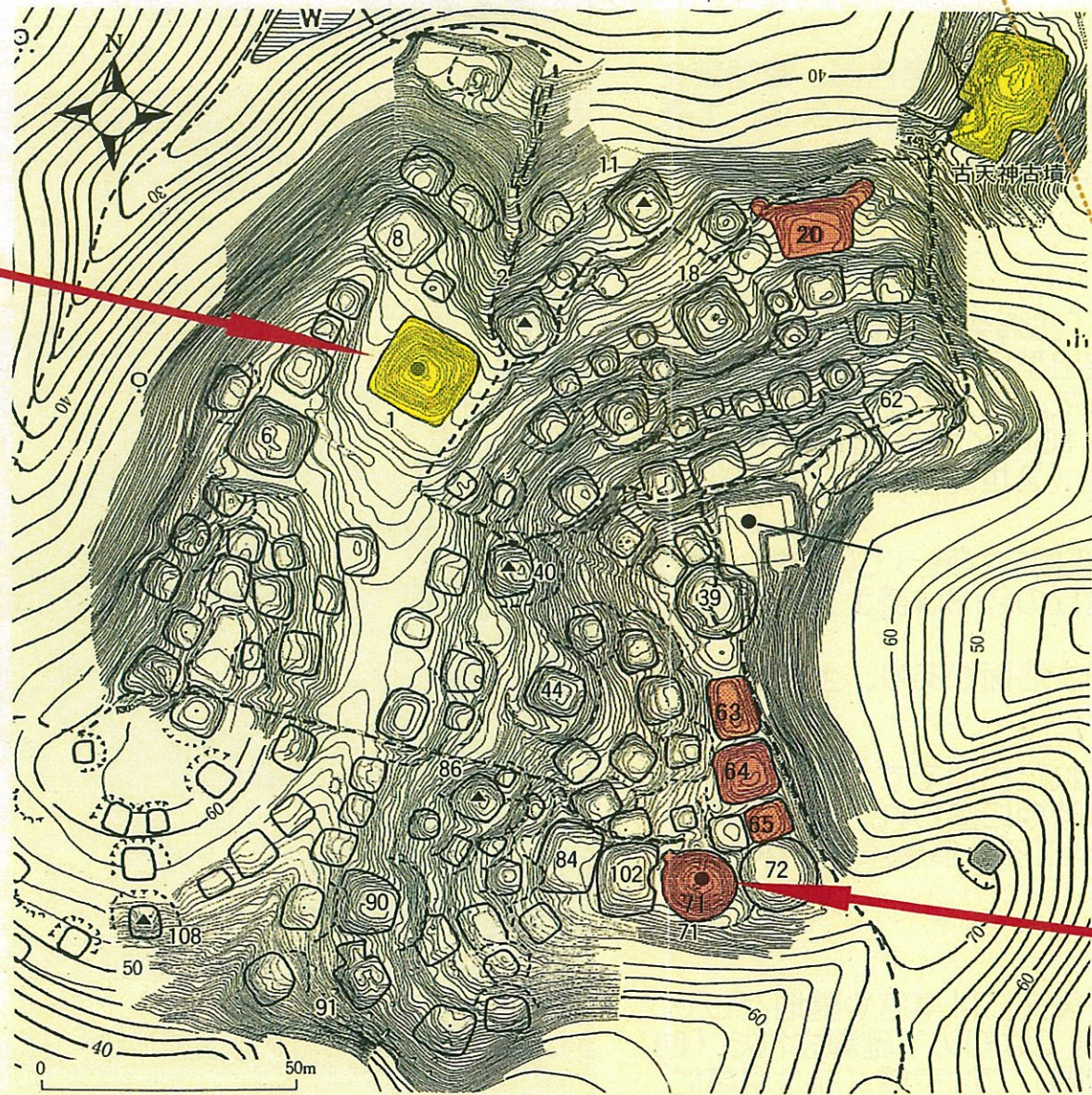


キヌガサ形埴輪全体図



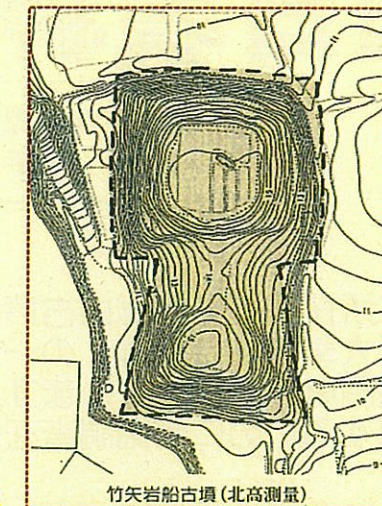
埴輪

1号墳からは円筒埴輪やキヌガサ形埴輪が出土しています。キヌガサとは、古代の貴人がさす傘のことで、首長の権威を示す器物と考えられます。

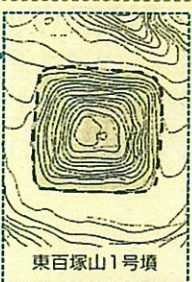


東百塚山古墳群は、前方後方墳2基、円墳3基、方墳136基からなり、方墳が96%を占めている点の特徴で、互いに裾が接するほど密集して作られています。一部4世紀の土器が出土していますが、大半は5世紀中頃から6世紀前半の約百年間につくられ、隣接する安部谷横穴墓群などへ墓域を移していったと考えられています。

## 5、6世紀の意宇地域の社会の構成



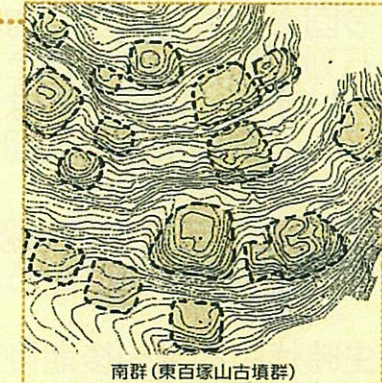
竹矢岩船古墳(北高測量)



東百塚山1号墳



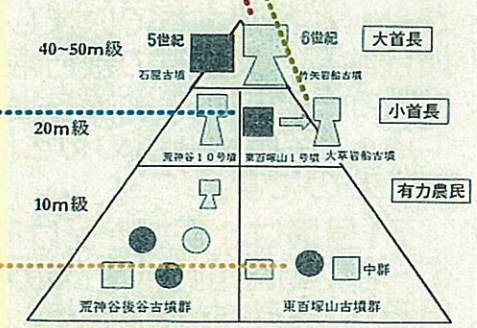
大草岩船古墳



南群(東百塚山古墳群)

5～6世紀前半にかけての意宇平野周辺の古墳は、規模や形態で幾つかのランクに分けることができます。最も上のランクの古墳は、石屋古墳、井ノ奥4号墳、竹矢岩船古墳など50～60mクラスの大古墳や前方後円(方)墳です。いずれも大橋川南岸に単独で築かれ、意宇平野一帯を支配した大首長の墓と考えられます。その次のランクは東百塚山1号墳や大草岩船古墳など20m前後の方墳・前方後方墳で、群集墳の一角に立地しています。その下のランクが10m未満の小古墳です。

このように、古墳の規模や形態、立地のあり方から、突出した権威をもち単独の墓域をもつ大首長、農民と墓域を共有しそのリーダー格であったムラ長(村落首長)、ムラ長のもとで古墳を作れるほど力を蓄えた有力農民、その下に古墳が築造できない一般農民といった、当時の社会構造の様子をうかがうことができます。



意宇平野の古墳の階層模式図



東百塚山71号墳

東百塚山古墳群では珍しい円墳です。墳頂に盗掘坑があります。

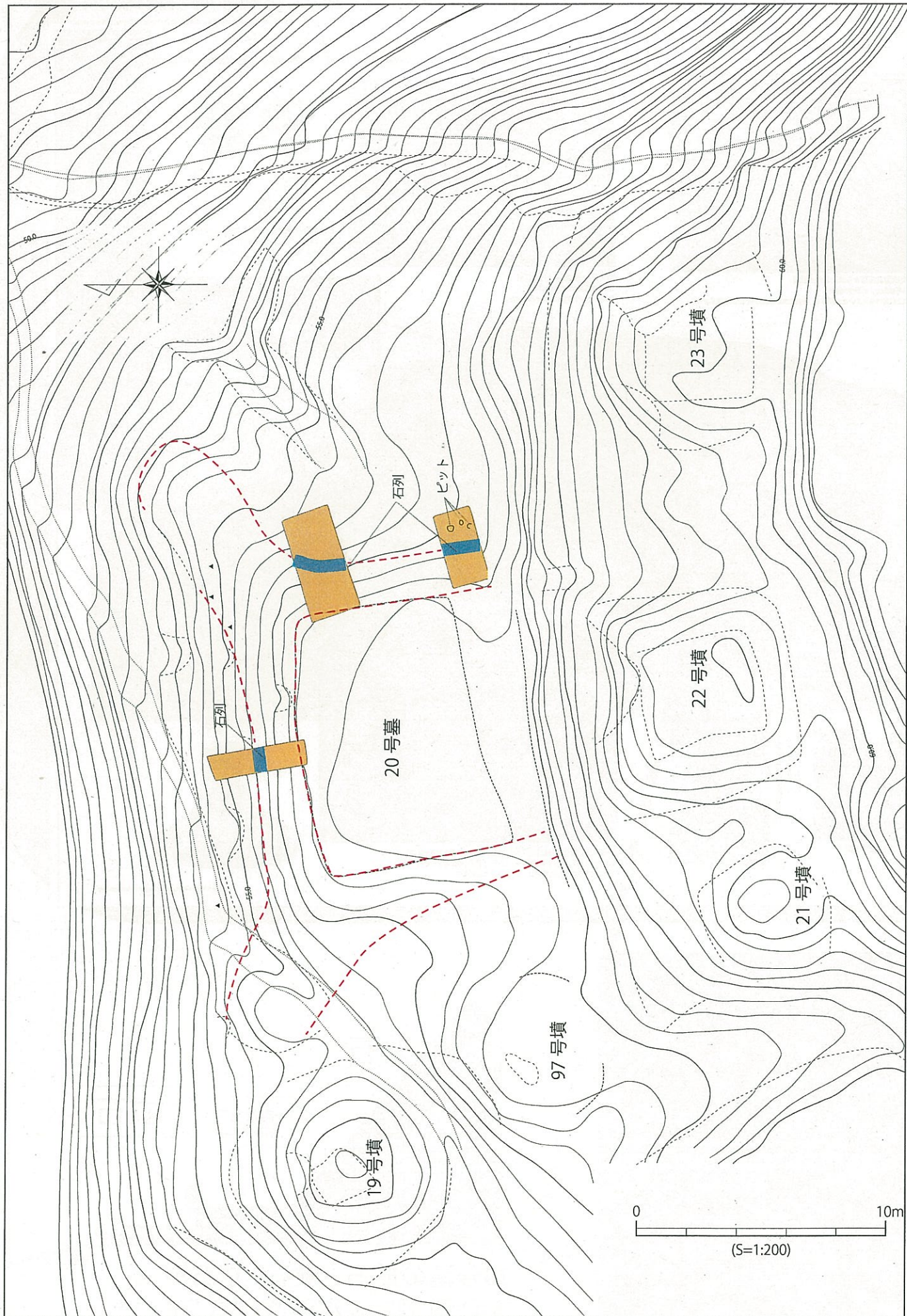


伝東百塚山出土の鉄製劔先(島根大学蔵)

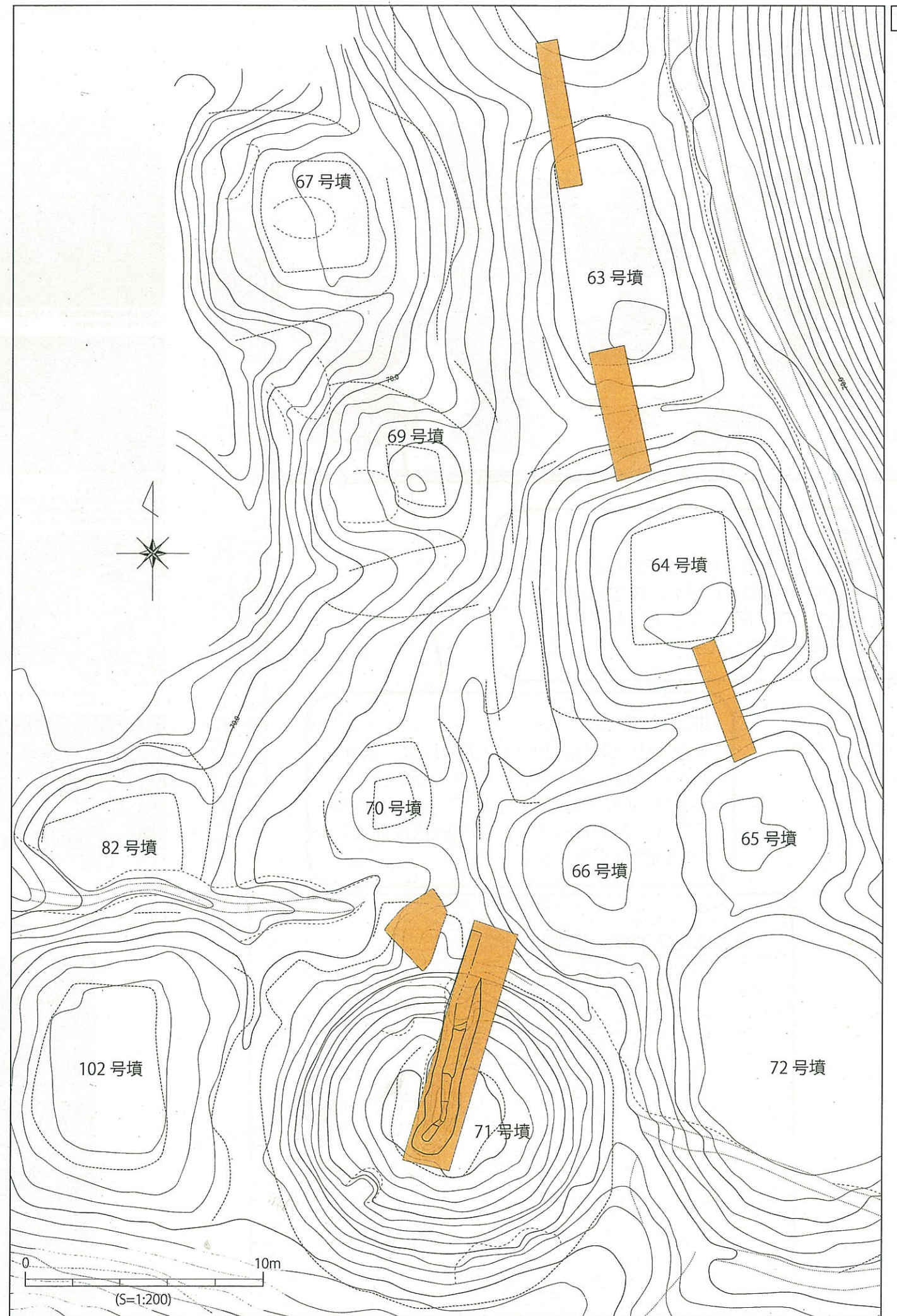
東百塚山71号墳から出土した可能性が高いものです。

※ 赤色で塗った古墳を発掘調査しています。 黄色に塗った古墳は過去に調査されました。





20号墓トレンチ配置図



63～65号墳・71号墳トレンチ配置図



# 参考資料

的場墳墓(松江市)  
出土の土器

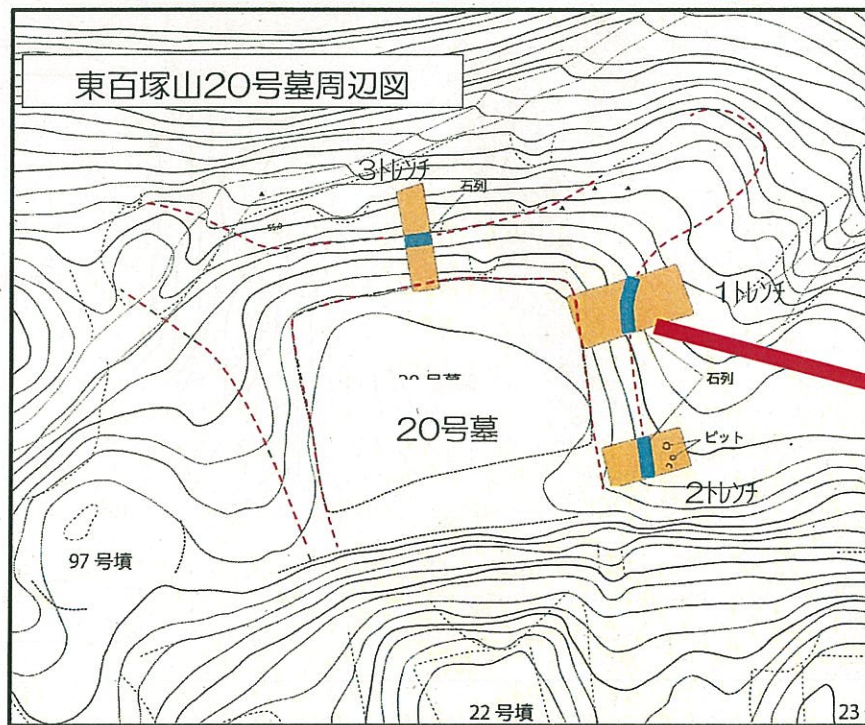


## 吉備系土器

東百塚山20号墓1トレンチからは、吉備系土器の小片が出土しています。的場墳墓で出土しているような小型特殊器台などの一部と考えられます。

## 地元の土器

東百塚山20号墓2トレンチからは、地元で作られた「鼓形器台」の小片が出土しています。的場墳墓で出土しているような形になると想定されます。弥生時代後期後葉の特徴的な土器です。

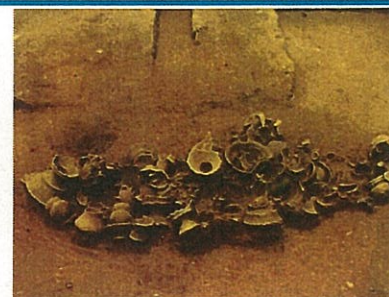


# 参考資料

1996 島根県教育委員会『いにしへの島根ガイドブック』第2巻より



上空から見た四隅突出型墳丘墓。ヒトデのような形がよくわかる。(宮山4号墓：安来市西条江町)



四隅突出型墳丘墓から出土した土器群(西谷3号墓出土：出雲市大津町) 墓穴の上に置られていた土器群で、全部で300個以上の土器が発見された。



墓穴を完全に掘り上げた状態(西谷3号墓：出雲市大津町) 棺の底には貴重な糸が敷かれていた。



王妃の墓から出土した、ガラス製のアークセサリー(西谷3号墓出土：出雲市大津町) 弥生時代に貴重品だったガラスは、現代の金やダイヤモンドより入手がむずかしかった。



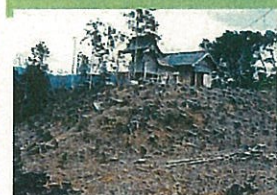
墓の上に置かれたナツの石(西谷3号墓：出雲市大津町) 死者の胸の上にあたる位置に置かれており、神聖な素材である水銀朱がついていることから、四隅突出型墳丘墓の上で行われた葬礼の祈りの中で、重要な意味を持つ石だったと考えられる。



四隅突出型墳丘墓の建物跡(西谷3号墓：出雲市大津町) 墓穴のまわりで見つかった柱跡で、葬礼の祈りを行うための建物が建てられていたと考えられる。



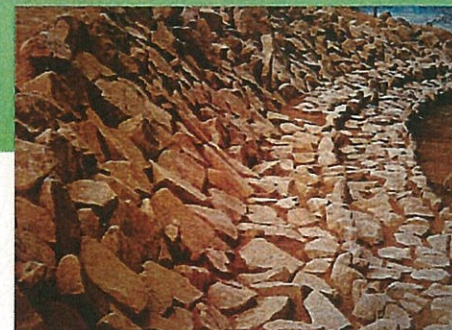
四隅が巨大化した四隅突出型墳丘墓(宮山4号墓：安来市西条江町) 四隅の突出部が発達して、しゃもじ形になっている。



島根県でもっとも大きい四隅突出型墳丘墓(西谷3号墓：出雲市大津町) 全長45m×38m、高さ5mの規模を持つ。



小規模の四隅突出型墳丘墓(西谷3号墓：出雲市大津町) 全長約10m×8m、高さ約2mの規模を持つ。

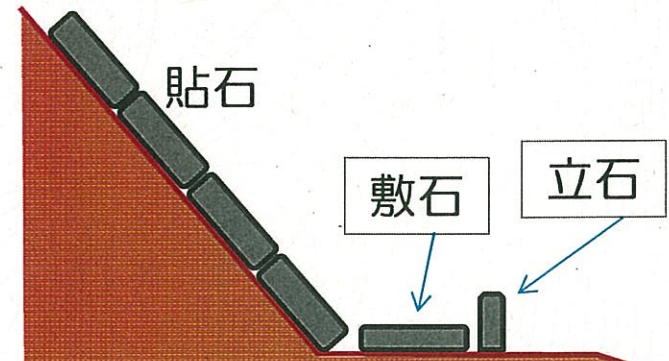


四隅突出型墳丘墓の貼石と列石(西谷3号墓：出雲市西条江町) 敷き詰められた貼石(墳丘の斜面に貼られた石)と列石(墳丘のすそまわりに並べて立てられた石)の中で、もっとも整齊な形で見つかった。



正面向きで並べられた貼石(西谷3号墓：出雲市西条江町) 敷き詰められた貼石(墳丘の斜面に貼られた石)と列石(墳丘のすそまわりに並べて立てられた石)の中で、もっとも整齊な形で見つかった。

独自の発見を選じた、出雲の王たちの墓  
【複製】二世紀・三世紀の島根



20号墓の貼石と敷石、立石列  
墳丘斜面の貼石の外周に敷石、立石列を1重に巡らしています。